

地元で働ける しあわせ

都会で自分を試したい！
華やかな都会に憧れて！
地元の仕事がなくて、やむをえず
理由はさまざまですが、多くの若者が、
高校を卒業後、進学、就職のために
南島原を離れます

その一方で、地元で職を求め、
地元で暮らす人たち。
今月は、そんな人たちの
「仕事」と「暮らし」に焦点を当て、
「地元で働けるしあわせ」と
題して特集します。

Part 1 一家3世代！同じ仕事ができるしあわせ



子 山下拓也さん

父 山下勝也さん

祖父 山下勝さん

確かに屋外でのきつい作業や、収入が天候や市場に左右されるなどのイメージから、就業先として敬遠される傾向にありました。しかし、平成21年の同調査の新規就農者は23人、平成13年から行われている調査の中では3番目に多い数字となっています。

「親子3代で農業をやる。こんな幸せはないぞー！」

勝也さんは、最近になって、特に「あ、本当によかった。この町に住み、農業をしていてよかった」と思うようになったそうです。

勝さんも満足げに言います。「子どもや孫と一緒に仕事ができる。孫の嫁も一緒にね。本当によろしいよ。こんな幸せはないぞ、と友だちからも言われるんだ」

「祖父と農業がしたい」

勝也さん、そして拓也さんも若いころから、農業をやることを考えていたそうです。拓也さんは、高校卒業後、造船所に就職しましたが、2年後退職。周囲の驚きをよそに、「祖父（勝さん）も高齢。大好きな祖父と、元気なうちと一緒に農業をしたかったから。まあ、

5年たった今も、元気すぎるくらい元気ですけれど」

後悔はしませんでしたか？と尋ねると「もちろんありません。だって、妻とめぐり逢えましたから」と照れる拓也さん。納得です。

「人とかかわり方」

布津地区消防団副団長などの職を歴任する父勝也さんは、人とかかわり方が気に入っているそうです。

「出会った人、大事な人は、ずっと仲間。変わらない信頼がいい」と話す勝也さん。

また、今、拓也さんも、島原半島地区青年農業者連絡協議会（農業後継者組織）の役員（事務局）として活躍しています。同じ志を持つ人との出会いが魅力なのとか。一緒に暮らす中で、父勝也さんの考えが息子の拓也さんに受け継がれているのかもしれない。



7人目の家族。ハチペエ。おじいちゃんが大好き！

「変わる田舎の評価」

最も景気の良かったころ、多くの若者が田舎を評して「娯楽の少なさ」と並んで口にしていたのが「しごらみ」のわずらわしさでした。時代は変わり、娯楽や喧騒、都会の希薄な人間関係ではなく、人と人の温もりや深い人間関係を選ぶ若者が増えてきたのかもしれない。そして、そんな若者が担う日本の未来は、とてもすてきなものになるのではないかと、そんな気さえするのです。

「農業は、休みさえも自分でマネジメントできる」

拓也さんに不満は何かありませんか？と最後にちょっといじわるな質問を。

「日曜日は休みのはずなんですけれど、なかなかね」と苦笑。家族協定で日曜

「山下家は、明るい家庭」

拓也さんの奥さんの弥佳（みか）さんも、嫁いで3年目。お義母さんとも仲良しで、取材の途中でも、冗談を言い合うほどの仲。

「嫁いだ当初は、わからないことばかりでした。でも、嫁いだときからはつきりわかっていったことがあります。それは、この家はとても明るくて楽しそうだな、ってこと。今もその気持ちが変わりませんね」

家族3世代で一緒に仕事ができるしあわせ。それは、家族みんなで笑いあえる「しあわせ」でもあるのです。

今月の特集は、

僕たちが手伝いました



左から荒木君、池田君、田中君

今月の特集では、西有家中学校の2年生、池田賢悟君、荒木豪君、田中規大君の3人に、写真撮影や、インタビューなどを手伝っていただきました。3人は、市商工会の川口会長へのインタビュー（7ページ）を行ったあと、吉田屋で吉田嘉明さんの写真撮影（8ページ）を行い、最後は深江町の商店で、日本トータルテレマーケティング株式会社に対する市民の反応を取材（7ページ）しました。

緊張の面持ちの3人でしたが、皆さんの協力もあって無事終了。今回の特集では、そんな3人の奮闘も、想像しながらお楽しみください。

職場体験学習

西有家中学校が例年行っている「職場体験学習」。今年も、2月2日から3日間、同校の2年生78人が、市内の商店や事業所で実際に仕事をしながら、働くことの意味や、その大切さを学んだ。



川口会長からは、いろいろ教えてもらいました。